行基の足跡と人間像に迫る　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2022-11-18

はじめに①

奈良市民にとって行基は集合場所。ところが２０２１年６月に私の生活圏ともいえる近隣の疋田町に菅原遺跡が見つかり、この菅原遺跡は行基ゆかりの長岡院ではないかと考古学会が色めき　新聞、テレビ大きく取り上げられた

はじめに②

荻生徂徠のことば「学問は歴史に極まり候ことに候」

歴史の中にこそ人間の知恵は宿されている。人間の愚かさもそこにはあらわだ。歴史に学んでこそ

人間はようやく自らの正体を知り、いくらか賢くなることができる。そんな意味か？

1. 行基は何をした人か

・大仏建立の立役者（勧進によるカネ集め、民衆動員力）

・布施屋を造って行倒れの旅人を救った（食事、宿泊）

・灌漑池や水路を造って農地開発の基盤（インフラ）を造った

・港（船息フナスエ）や堀を造って漁業や交易の基盤。貝塚の神前船息の例

・８２年の生涯で寺院・道場を４９、布施屋９　ため池１５，水路・港９　橋７を残した

・寺院、道場を造って仏教思想をひろめた。農民のみならず商業、運送業、手工業などに従事する

　人々が対象であった

1. 今も残る行基ゆかりの建造物の例

・喜光寺（菅原寺）

・久修園院（枚方市）（くしゅうおんいん）　大阪夏の陣で大半が消失

・狭山池

・昆陽寺（伊丹市）昆陽池（こやいけ）上池と下池があったが江戸初期に埋め立て

・久米田池（岸和田市）大阪府最大の面積で野鳥の国際空港と言われる

・全国にゆかりの寺は１４００

1. 生涯

　　　６６８年河内の大鳥郡（現在の堺市）に生まれる　両親とも百済系の帰化人　応仁天皇の時代に百済から招かれた　生家は家原寺として残る

　１５才（６８２年）に出家・修業

　３７才（７０４年）修業を中止し娑婆で活動

　５０才（７１７年）行基集団に対する弾圧（小僧行基）僧尼令違反

　７4才（７４２年）聖武天皇が出向いて行基に会う

　７８才（７４５年）大僧正に抜擢（当時の僧正玄昉は怒る）

　８２才（７４９年）菅原寺で没す

1. 人格形成
2. 道昭との出会いで法相教教学および山林修業を学ぶ

　飛鳥寺、高宮寺（御所市）、薬師寺で修業

　福田思想：福徳を生み出す田という意味。功徳を施せば菩薩になって幸せになれる

　　　　　　道路わきに井戸を掘って利用してもらう。果樹を作ってみんなに食べてもらう

　　　　　　木陰を作って人に憩わせる。橋梁渡船を設け人々の利便をはかる

　　　　　　因果応報思想

　呪術者の雰囲気

1. 官寺仏教徒の決別
2. 時代背景

　万葉集小野老「青仁よし奈良の都は咲く花の匂うがごとく今さかりなり」

1. 都の造営が続き民衆は疲弊

　７１０年奈良遷都

　７４０年恭仁京遷都

　７４１年国分寺建立の詔

　７４２年紫香楽離宮

　７４３年大仏建立の詔

　７４４年難波宮遷都

　７４５年平城遷都

　７５２年大仏開眼供養

1. 天変地変が相次ぐ

　７２７年大飢饉　死者数は不明だが１１８１年の大飢饉では４万２３００人が餓死

　７３４年奈良地方に大地震

　７４５年美濃地方を震源とする大地震。３日３晩揺れ続いたとか、余震も２０日続く

　　　　　地割れが発生しそこから水が噴出

1. 天然痘の大流行（７３５年～７３７年）

　７３７年藤原４兄弟相次いで死去

　死者数は１００万～１５０万に上り　人口の３０％が亡くなる。追儺式はこの時代が起源

　長屋王の祟りと言われ　聖武は最も恐れていたと思われる

1. 関連情報
2. 奈良時代の僧侶の地位

　僧侶には国の全面的な保護があり　衣食住の心配はなく、納税義務もない。その代わり所定の寺院で国家の安穏をひたすら祈ることが義務

1. 奈良時代の租税制度

＜国の制度＞

　・本貫地主義：戸籍の登録地に住み、口分田を耕し、納税する。勝手に移住はできない。

　・自ら運京：税は自分で運んで納税する

　　　　　　　ただし、九州は大宰府、東北は多賀城へ納付

　　　　　　　７１２年の御触れ「郷里に帰るに食糧が欠乏し、飢えて池や谷に転落する者が少なく　　ない。物を与えよ。そして死ぬ者がおれば埋葬せよ」

＜納税の種類＞（８０種類にもなる）

　・祖・・・稲→地方の蔵に蓄える　収穫の３％　地方宮司の財源

　・庸・・・布、米など　中央政府の財源

　・調・・・布、食品、鉄、鍬、銭など特産品。中央政府の財源

　・雑徭・・・労働力（正丁１人６０日以下、国府にて）

・仕丁・・・労働力（50戸から2人が1年間、都で役所の雑役）

　＊税率は種類が多いので何％とは言えない

３）大仏建立

　　　　　「三宝（仏法僧）の力により天下が安泰になり動物、植物など命あるものすべてが栄えること　　　を望む」として金銅像の廬舎那仏を造った。仏教の力で様々な社会不安を鎮め、万民のこころをひとつにするという鎮護国家を目指した。

　　　　　　作業員延べ２６０万人、総額（現代価格換算）　４５００憶

　　　　　　人口は奈良時代：現在＝１：２０　で引き延ばすと

　　　　　　作業員延べ５２００万人　総額　９０兆円

1. 行基の人となり

　　　　　・才能豊か。瑜伽と唯識論を読んですぐに意味するところを理解した

　　　　　・親思いの人。全国行脚で詠んだ歌「山鳥のほろほろと啼く声きけば父かとぞ思う母かとぞ思う」母を看病して「百坂に八十坂添えて賜いてし乳房の報い今日ぞわがする」

　　　　　・社会的弱者（親の内子、身寄りのない老人、病人、貧者など）の救済

　　　　　・人を組織する力、他の集団と連携する力があった。行基集団１００人。

　　　　　　山林修業を通じて「道術的な霊異」を漂わせていたのでは。

　　　　　・和尚が来るを聞けば巷にいる人がなく、争い来りて礼拝する。千人に及ぶことも

　　　　　・民衆のこころをくすぐることが巧み

　　　　　　　船息などで富を蓄えた人には財貨を献上させ　その行賞として従７位として貴族に

1. 今に生きる行基

　・行基を冠した名前

　　　　１９７５年大阪で新設された橋の名を「行基大橋」　バス停も「矢田行基大橋」に変更

　　　　公園南郵便局→東住吉行基郵便局に

　・１９９８年大仏殿にて「行基菩薩１２５０年御遠忌法要」堺行基の会が中心で

　・２０１８年行基生誕１３５０年記念行事「行基に学ぶ」を（社）近畿建設協会が主催

主な参考文献

　　吉田靖雄著「行基」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（文責：高城）